

国際文化学科 ディプロマ・ポリシー (DP)、カリキュラム・ポリシー (CP) 及びアセスメント・ポリシー

DP		CP 編成方針	アセスメント・ポリシー	
第一層	A	幅広い教養と専門的知識・技能を身に付けている。	卒業認定・学位授与の方針に示す質的水準の達成状況である学生の学修成果としての各 資質・能力については、下表に定めるとおり、各授業科目の到達目標に対する学修者の到達 度について実施されるDP観点別評価の結果を集約するとともに、本学が定める大学のアセ スメントマップに示す各種調査などを必要に応じて用いることによって、その修得状況を把握 し可視化する。 また、本学科の教育内容・活動については、把握・可視化した学修成果をふまえ、アセスマ ントマップに示す各種調査などを用いることで、多角的に検証する。 その検証結果は、自己点検・評価活動やFD活動において、本学科の教育改革・改善に資 するよう活用する。	
	B	学びと研究の質を高めることができる思考力・判断力・表現力等 を幅広く身に付けている。		
	C	地域社会及び国内外の諸課題の解決に主体的・創造的に参画・ 貢献することができる。		
	D	自己の成長と社会の発展のために、自律的に学び続ける態度を 身に付けている。		
第二層 (共通科目)			学修成果を測定する方法	主な科目
	A-1	幅広い学問領域の基本的な概念や理論を修得し、教養としての 知識・技能を身に付けることで、社会事象を多面的に理解する ことができる。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況を DP観点別に評価した結果を集約し、学年別および全学年を通して「知 識・技能」の学修成果を測定する。	教養科目
	B-1	学びや研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を獲得し、幅広 い領域に活用することができる。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況を DP観点別に評価した結果を集約し、学年別および全学年を通して「思 考力・判断力・表現力等」の学修成果を測定するとともに、外部検定試 験や外部アセスメントテストの結果も活用する。	外国語 データリテラシー スタディスキル ヘルスリテラシー
	C-1	修得した資質・能力を主体的に活用し、多様な人々と協働しなが ら実際の課題に取り組み、創造的に課題解決に向かうことがで きる。	各科目におけるグループワークや研究発表、実演等によって、到達状 況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して 「総合的な学修経験・創造性」の学修成果を測定する。	ライフデザイン応用
	D-1	社会的課題やそれに対する学習・研究を通して、我々の生き方 の指針を深く考え、自律的に真理を探究し続けることができる。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト、研究発表等によっ て、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を 通して「態度・志向性」の学修成果を測定する。	キリスト教学 ライフデザイン基礎 西南学院史
第二層 (専攻科目)			A	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価 した結果を集約し、学年別および全学年を通して「知識・技能」の学修成果を測定すると ともに、外部検定試験の結果についても活用する。
	A-2	多様な文化に関する基礎知識、およびその歴史的・思想的背景 に関する幅広い教養を修得している。	文化に関する知識と教養を養成する科目において、基礎的な知 識に加え、学修者自身の説を論述する試験等によって、その学 修成果を測定する。	文化コース基礎論
	A-3	文化事象について学術的に考察するための専門知識と方法論、 および文献読解に必要な語学力を修得している。	文化事象に関する知識・方法論や語学力を養成する科目におい て、知識・方法論の叙述や、語学力を測る試験等によって、その 学修成果を測定する。	日本文化史等 専門外国語
			B	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価 した結果を集約し、学年別および全学年を通して「思考力・判断力・表現力等」の学修 成果を測定するとともに、外部検定試験や外部アセスメントテストの結果も活用する。
	B-2	多様な媒体から信頼しうる情報を取捨選択して適切に活用できる メディア・リテラシー、および異文化理解のために必要な読解力を 身に付けている。	基礎的なリテラシーと正確な読解力を養成する科目において、毎 授業回初歩的なプレゼンテーションや文献読解を行い、その都 度の情報整理能力と発信力の伸長度を確認し、学修成果を測定 する。	基礎演習
	B-3	読書と議論を通じて自己の意見を柔軟に練り上げるための思考 力と対話力、およびそれを明確かつ論理的に表現するための文 章力と発言力を身に付けている。	専門研究に必要な思考力を養成する導入演習において、毎授業 回ディスカッションへの参加、または文献読解の報告を求め、そ の都度の思考力の伸長度を確認し、学修成果を測定する。	導入演習
			C	各科目におけるグループワークや研究発表、実演等によって、到達状況をDP観点別に 評価した結果を集約し、学年別および全学年を通して「総合的な学修経験・創造性」の 学修成果を測定する。
	C-2	歴史と文化についての知識と思索を踏まえて研究課題を自ら設 定し、主体的に考察することができる。	研究プロセスを学び高度な思考力を養成する専門演習におい て、文献読解の発表やディスカッションへの参加態度、および学 修者による報告書等によって学修成果を測定する。	専門演習
	C-3	現代社会における文化の役割を理解した上で、異文化間の相互 交流と新たな文化の創造に寄与することができる。	知識・教養と異文化体験を学術論文に見華させ、今日的意義を 探る演習科目において、専門的な視点からの評価に加え、学修 者自身による自己評価および学修者相互の評価等を用いて、学 修成果を測定する。	卒論演習
			D	各科目におけるレポートや研究発表等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果 を集約し、学年別および全学年を通して「態度・志向性」の学修成果を測定する。
	D-2	自己の価値観について客観的に反省できる批判精神、および他 者の文化の多様性を理解し尊重できる寛容さを身に付けている。	多様な文化を学び、世界観を養う様々な専攻科目において、既 存の秩序への批判精神や、多様性を寛容する態度の修得で、科 目個別の測定方法によって測定する。	文化創造論等
	D-3	学術を単なる手段とみなすことなく、文化を学ぶこと自体に喜び を見出し、その愉悅を他の人々と共有することができる。	知的好奇心と探求心を養成する様々な専攻科目において、文化 を学ぶことの喜びを見出し、それを他者と共有しているかどうかを 自己評価や相互評価により測定する。	文化のダイナミズム 等

CP 実施方針
授業科目の実施にあたっては、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」の修得を目的とするものについては、講義を中心とした授業形態を採り、「総合的な学修経験・創造性」や「態度・志向性」の修得を目的とするものについては、演習、実験、実習及び実技を中心とした授業形態を採る。いずれの授業形態においても、教員が適切な教材を用い説き明かす教授法や、学生の自律的な事前事後学習を促す教授法、教員と学生間及び学生間の協働のもと、学生の主体的・対話的な課題への取り組みを促す問題解決型の学習法、学生の能動的な研究・発表活動による学習法等を最適に組み合わせることによって、学生が到達目標に対し一定の水準以上に到達できるよう教授する。
国際文化に関する分野の教育課程の編成をふまえ配置された各授業の内容に応じ、知識の理解を目的とする教育内容について、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式による授業形態を採ることとし、理論的な知識や技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容については、実習形式や実践形式を交えた授業形態を採る。 少人数制で運用される演習科目においては、自己表現力、コミュニケーション能力、問題設定能力とその解決能力を高めるため、プレゼンテーションやディスカッション等の教授方法を用いる。